

輪作草地と混播

多収と良質、そして安定作のために多種類混播を

畑地経営は勿論のこと、水田経営においても近代化された作付型態には、必ずその輪作の中に牧草が含まれて居ります。これは牧草を加味した輪作は、耕土の若返り、労力の調節が出来る等多くの利益があるからでしよう。輪作の目的に緑肥用、飼料用、両者の兼用とがあります。が、いずれの場合も牧草の混播が有利であります。

(一) 採草地の不作解除は多種類混播を

従来採草地の牧草混播は二〜三種の範囲が圧倒的なよう、例えば北海道においては赤クロバ、チモシー、オーチャードグラスの混播の多いが如きであります。特に寒冷地では年々、月々、非常に変化に富んだ気象条件下で牧草栽培を行わなければならず、この条件下にある私共は多種類混播によつてこれに対応し、安定作を得るようすすべきであります。これは実作物の品種配

寒冷地の多種類混播の一例

反当播種量(封度)

摘

要

赤クロバ 二(一、二年目の生育良好、但し二番三番草の伸びはあまりよくない)
チモシー 二(二番三番草の伸びはあまりよくない)

オーチャード 一(二年、三年目と旺盛に生育し再生力旺盛)
ルーサン 〇・五(三年目より旺盛に生育し、特に二、三番草の伸びがよい)

マウンテンブROOMグラス 一(春の乾燥する年によく生育する。一、二年目旺盛な生育をする)

アルサイク 〇・五(低温多湿の年に旺盛な生育をする)

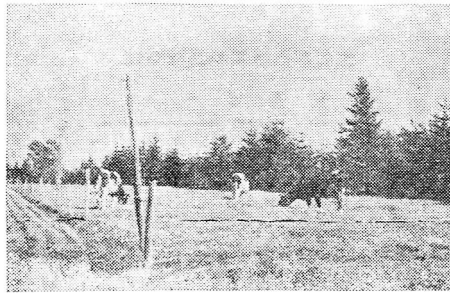
メドウ フェニス 〇・五(二、三年目も旺盛に生育し、再生力旺盛)

冷涼多湿に備えて

高温多雨に備えて

合を適当にして危険を分散し安全作を得ると一致した考え方であります。更に牧草の若刈りで年に三回以上も刈取る場合、または二番刈後を放繋牧に利用され場合は、反当ラデノクロバを半封度も前記組合せに混播すると、一層の多収を期待することが出来ます。

(二) ラデノクロバの放繋牧地にも二〜三種の混播



輪作に入れられたラデノ、ペレニアル、オーチャードの混播放繋牧地

ラデノクロバの放繋牧地は普及しておりませんが、単播では鼓脹症を誘発したり、病虫害が発生したりします。そこで禾本科牧草の混播によつてこれを防ぎ、しかも更に

とが試みられておりますが、再生力の旺盛なラデノクロバだけに、これと競つてよく伸びる牧草は仲々ありません。しかしこれも二〜三種類を組合わして対抗させますとよく混播の目的を達します。即ちつぎのような組合せもその一つであります。

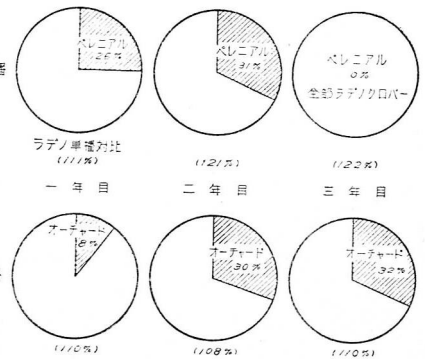
反当播種量

摘

要

ラデノクロバ 一(封度)
ペレニアルライグラス 一(封度)
メドウフェニス 一(封度)
オーチャードグラス 一(封度)

一、二年目は旺盛に競合し生育する。
三年目以降旺盛に競合し生育する。



ラデノクロバの混播にはペレニアル(1~2年)オーチャード(3年以降)が適当

出ます。間は安心して利用し、四五年間の通りであり、上の通り況を图示します。この混播における年次別の生育状況を示す。

(三) 緑肥用にも土壌改良を目的として禾本科牧草を混播

緑肥用として牧草を栽培する場合は、従来は苜蓿科特に赤クロバが主体でありましたが、更にこれに禾本科牧草(チモシー、オーチャード、マウンテンブROOM、ペレニアルライグラス、メドウフェニス等)を返し後雑草化しないものを混播する事は、草や根の量を多くする許りでなく、土壌にリグニン(難分解の有機質)含量の高い有機質を多量に与えて土壌改良を一層効果的にします。苜蓿科の緑肥は窒素肥料としての、又禾本科の緑肥は有機質の効果が主であることは一般常識ですが、緑肥目的の草地も、苜蓿科単播は硫安単用、禾本科苜蓿科混播は硫安十有機質という効果の違いとなり、いずれが土地のためによいかは言うまでもないと思われま